【 61 】

氏名	清　水　直　樹
学位の種類	医　学　博　士
学位授与番号	乙　第 1216 号
学位授与の日付	昭和56年9月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 （学位規則第5条第2項該当）
学位論文題目	**肺の生前および死後のレ線像と，血管造影像並びに病理形態学的変化に関する研究** **第1報　725例のレ線像と，基礎疾患および肺病変との比較検討** **第2報　肺塞栓症62例の検討** **第3報　肺における悪性腫瘍の血管密度**
論文審査委員	教授　粟井通泰　　教授　山本道夫　　教授　木村郁郎

学位論文内容の要旨

死周期病像の理解を助ける目的で死後の胸部レ線撮影をおこなった。第1編では，生前および死後の胸部レ線像の比較を基礎疾患別，肺病変別におこない，特に肺うっ血と肺水腫は死後の胸部レ線像で鑑別できることを明らかにした。

第2編では，肺塞栓症62例について肺血管床の閉塞の度合と臨床症状，検査所見，胸部レ線所見，肺動脈造影所見とを互いに比較検討した。塞栓子は血栓が主体であり，症状として呼吸困難，咳嗽，頻脈，チアノーゼ，検査所見としてはＬＤＨ，ビリルビン，ＦＤＰ，動脈血ガスなどが本症と密接な関連性を示した。

第3編では，肺に原発性ないし転移性の悪性腫瘍がみられた61症例について気管支動脈造影または肺動脈造影を施行し，両血管の腫瘍内血管密度について検討した。腫瘍内血管密度は腫瘍の大きさ，局在，組織型，doubling timeなどと一定の相関性を示すことが明らかになった。

論文審査の結果の要旨

本研究は肺の生前および死後のレ線像と血管造影像並びに病理形態学的変化に関して研究したものである。従来あまり行なわれていなかった此の方面に極めて祥細な検討が加え

られ，いくつかの重要な知見たとえば肺うっ血と肺浮腫の鑑別などが得られ，価値ある業績であると認める。

よって，本研究は医学博士の学位を得る資格があると認める。